

神崎市水源地域活性化推進会議 第3回全体会議 議事抄録

開催日時	令和8年2月18日(水) 14:00~16:00	
開催場所	神崎市本庁舎 3階大会議室	
出席者	委員	<p>16名中14名出席</p> <p>神崎市 市長 實松 尊徳 会長</p> <p>神崎町区長会 羽立 一喜 委員</p> <p>千代田区長会 坂井 正彦 委員</p> <p>佐賀大学 名誉教授 五十嵐 勉 委員</p> <p>作業部会長(施策①) 倉永 大延 代理</p> <p>作業部会長(施策②) 井上 義博 代理</p> <p>作業部会長(施策③) 事務局 代行</p> <p>作業部会長(施策④) 本間 昭久 委員</p> <p>作業部会長(施策⑤) 吉原 俊樹 委員</p> <p>国土交通省 佐賀河川事務所 遠山 修平 委員</p> <p>佐賀県 城原川ダム等対策室 前山 晴彦 委員</p> <p>神崎市 総務企画部 中島 勝利 委員</p> <p>神崎市 建設部 筒井 彰久 委員</p> <p>神崎市 産業振興部 久保山 直人 委員</p> <p>神崎市 市民生活部 宮地 直仁 委員</p>
	随行者	国土交通省 計2名
	傍聴者	3名
	報道機関	なし

議 事 録

開会 (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神崎市水源地域活性化推進会議 第3回全体会議の開会に先立ち、会議の公開について説明</li> <li>・ 会議後、ホームページ等で資料および議事録を公開する予定であることを説明。</li> <li>・ 配布資料の確認              次第              資料・1 神崎市水源地域活性化推進会議委員名簿              資料・2 神崎市水源地域活性化推進会議設置要綱              資料・3 令和7年度の活動報告(事務局)              資料・4 作業部会の活動報告と今後の方針(作業部会長)              資料・5 今後のスケジュール</li> </ul>
市長あいさつ (實松市長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市長あいさつ</li> </ul> <p>&lt;以下、挨拶の概要&gt;</p>

	<p>第3回全体会議の開催にあたり、お忙しい中ご出席いただき感謝申し上げます。日頃より城原川ダム建設の取り組みにご理解とご協力をいただいていることに重ねてお礼を申し上げます。</p> <p>本日の会議では、作業部会の活動状況の報告等を行う予定である。城原川ダム建設に伴い、苦渋の決断をいただいた方々や、脊振地区の方々が今後の地域の行く末を心配されていることを常々感じている。そうした思いをしっかりと形にして、心配したが良い形になり地域が盛り上がってきたと言えるようにしていかなければならない。その取り組みを、行政がやるというよりも、市民の皆さんと一緒に取り組んでいく必要がある。</p> <p>昨年12月に城原川上下流域懇談会を開催し、五十嵐先生にご講演をいただき、国土交通省佐賀河川事務所や県にもご協力いただきながら開催できた。この懇談会の狙いは、移転される方々への感謝の気持ちを伝えることと、神埼町・千代田町の市民の皆さんに城原川ダムの意味・意義を考えていただく機会にすることであった。</p> <p>水源地域振興計画に掲げている取り組みは、どれも大事なものであるが、一つ一つ時間のかかるものもあるため、着実に進めながら形にしていきたい。本日は忌憚のないご意見をいただき、実りある会議の時間にしたい。</p>
委嘱状交付 (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2に基づき、委嘱状交付（委員の任期が2年となっているため）</li> <li>・代表して専門部会長の五十嵐佐賀大名誉教授に委嘱状を交付</li> </ul>
副会長・議長 選任（事務局）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本会議設置要綱に基づき、副会長兼議長に、實松会長は五十嵐委員任命。</li> <li>・進行を五十嵐議長（副会長）に移行した。</li> </ul> <p>&lt;五十嵐議長（副会長）の挨拶&gt;</p> <p>水源地域の活性化のための計画作り段階から関わらせていただいている。かなり時間が経過しているが、いよいよ活性化のための具体的な取り組みが本格化する段階に入っている。この会議の場において忌憚のないご意見をお願いしたい。</p>
<議事開始> 議長	今年度の活動状況の報告と今後のスケジュールまで、一括して説明を受けた後、質疑応答を行うことを説明。
<報告1> 今年度の活動 経過について	<p>資料-3に基づき、事務局より令和7年度の活動経過について報告。</p> <p>報告内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国・県との情報共有について</li> <li>○神埼市各部局との連携（関係各課が作業部会施策の具体化を支援）</li> <li>○出前講座の実施：令和7年9～10月に市内の小中学校6校で実施</li> <li>○先例地視察：令和7年10月31日に流水型ダムの先行事例である阿蘇立野ダム（令和6年度竣工）と川辺川ダム（建設中）の周辺地域を視察</li> <li>○城原川上下流域懇談会：令和7年12月7日開催。移転される水没地域の皆様に感謝を伝えるとともに、今後の水源地域の振興について考える機会として実施</li> <li>○スタンプラリー：令和7年11月15～30日に九年庵秋の一般公開に併せて実施</li> </ul>
<報告2> 各作業部会の 活動報告	各作業部会の活動および今後の方針について各部会長（欠席の場合は代理）より報告

<p>部会 1 報告</p>	<p><b>【当面進めていく施策】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ダムより上流の森林環境の保全と育成を多様な組織が協力して行う</li> <li>2) ダムより下流の神埼町域の里山としての環境・景観を保全活用していく</li> <li>3) 城原川や流域の水資源を観光や産業に活かしていく</li> </ol> <p><b>【具体的な方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脊振町の森林における間伐や植林等の森林管理を地域一体で進める。森林の保全育成に携わっている作業部会内の団体を中心に、地元企業や一般の方々も巻き込みながら実施する。</li> <li>・ 財源として森林環境譲与税の活用を神埼市に検討いただく。</li> <li>・ 市の林業係が進めているカーボンオフセットの取り組み（J-クレジットの認証）とも連携。間伐の推進が市内の企業の CO<sub>2</sub> 削減に寄与するため、市内企業との連携を期待</li> <li>・ 市内企業で間伐材を用いたバイオマス発電を検討中。</li> </ul> <p><b>【課題・要望】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神埼町域の里山環境の保全にあたり、本会の活動の趣旨を総合的に理解した上で、建設工事にも反映させることが将来の神埼市の価値をより向上させるものではないか。</li> <li>・ 歴史と伝統のある地域に大規模な人工物を作ることになるため、相応の検討が必要であり、積極的に地域の価値を発信することが重要と考える。</li> </ul>
<p>部会 2 報告</p>	<p><b>【当面進めていく施策】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 歴史文化財の価値を把握するための調査(仁比山神社ほか)</li> <li>2) 近代文化遺産や再生可能エネルギーの教材として広滝第一発電所の活用を検討</li> <li>3) 国の城原川関連の環境調査や市史の編さんに関わる調査などで集めた情報を用いた講座の開催など→神埼塾（神埼情報館）</li> <li>4) 城原川の治水の歴史や城原川の水を利用した水車の歴史を伝える水車の里の活用・活性化</li> <li>5) 下流域で実施されている水の郷再生市民会議との連携</li> </ol> <p><b>【具体的な取組事例など】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年11月に仁比山神社の山門と仁王像の保全に向けて、教育委員会文化財係の協力を得て保存会を立ち上げ、県指定文化財への格上げに向けた要望書を提出。先般、県からの回答があり、現状では位置づけが不十分なため、具体的な調査（専門家へ依頼、X線調査、解体調査等）を所有者（仁比山神社）で実施してほしい。財政的支援は難しいが技術的な支援は行う旨の回答あり。</li> <li>・ 小淵地区の水車の里振興会では、水車の里に復元された水車を活用した地域活性化の取組を実施中。九年庵公開と併せて水車米（水車を使って精米）の販売等を行っている。スタンプラリーの開催等により来訪者、購入者が増えた。</li> </ul> <p><b>【課題・要望】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「脊振を愛する会」の活動について紹介。6月のあじさい祭りや11月のかかし村など年間7～8回のイベントを開催してきたが、高齢化が進み活動に支障をきた</li> </ul>

	<p>している。年金制度の関係もあり65～70歳以降も働く人が増加し、会員が増やせない。脊振地区を拠点とする他の活動団体や高校・大学など学生の力を借りるなど、若い力の導入を模索している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進会議の中で城原川ダムの位置づけについて再考できないか。治水安全度の見直し、流水型ではなく水を貯める利水の機能を持たせるなども検討の余地はないか。川自体の流れの変化も進んでおり、洪水をどのように下流に流していくかを含めた検討が望まれる。</li> </ul>
部会3報告	<p><b>【当面進めていく施策】</b></p> <p>1) 農産品・特産品のブランドづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化する農業生産者を支援するための仕組みづくり：生活必需品の宅配と農産品の庭先集荷を兼ねた流通共販の仕組みづくりなど</li> <li>・ 農業の担い手不足への対応：チャレンジファームを広く周知して担い手の確保・育成</li> <li>・ 耕作放棄地対策：農地の貸出し等による市民農園や観光農園の取り組み。福岡市・佐賀市に近い特徴を生かして関係人口を集めて移住者の増加につなげる</li> </ul> <p>2) 新たな魅力の発掘・創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脊振地区の拠点となる高取山公園の活性化のため、イベントの充実、新たな企画の実践等により利活用の増進を図る。</li> </ul> <p><b>【具体的な取組事例など】</b></p> <p>1) 高取山公園の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高取山公園収穫祭(令和7年11月8日開催) <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 地元の出荷部会（婦人会）が地元の食材を使った食事メニューを提供</li> <li>－ 野外コンサート</li> <li>－ マルシェ（露店、キッチンカー）</li> <li>－ 裏山で山桜の植樹イベント（農林水産課林業係主催）</li> </ul> </li> <li>・ 新たな取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 朝ヨガ、マルシェ：通年の集客が可能となるよう更なる取組みを進める。</li> <li>－ ダム模型の展示：ダムの仕組みを知ってもらうため、国交省より嘉瀬川ダムの模型を借用して、収穫祭やわんぱく祭りで紹介</li> <li>－ 顔はめパネル：令和6年11月に開催された県主催のイベントで顔はめパネルのデザインを募集、現在、デザイン選定・製作が完了し、公園に設置済。</li> <li>－ アンブレラボール：脊振小学校の子どもたちと作成。今年は、トヨタ紡織ハンドボール部レッドトルネードの選手も参加</li> </ul> </li> </ul> <p>2) 地元特産品の販売拡大による地域経済の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の高齢者が作る農作物や加工品を販売する直売所</li> <li>・ 新たな販路の開拓：ふるさと納税の返礼品、移動販売など</li> <li>・ ハッピーサロンの活動→水没地区からの移転に伴い場所の移動</li> </ul> <p><b>【推進上の課題】</b></p> <p>1) 農業生産者の担い手不足・高齢化</p>

	<p><b>〔対策〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チャレンジファーム等を利用して担い手の確保・育成が必要（参加者は令和5年・6年が各1名、令和7年は0名）</li> <li>・ 参加者が増えない要因を解決しながら取り組んでいく必要がある。</li> </ul> <p><b>2) 販路の拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高取山公園、かんざき遊学館等における販売の拡充</li> <li>・ ふるさと納税の返礼品、移動販売などによる集荷・販売の拡大</li> </ul>
部会4報告	<p><b>【脊振地区の移住政策の経緯】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合併前の脊振村時代に100円宅地という事業で村有地を造成・宅地化し、定住人口を増やす取組みを実施。実際に約250名が村外・県外から移住した実績あり。</li> <li>・ 合併後はそういった行政主導の移住政策が行われていない。</li> <li>・ 行政主導の移住政策は非常に効果的だが、今後は空き家もあるため、新陳代謝的に人が減っていく分、新たな人が入っていくような形の、継続的な移住政策がよいのではないかとといった議論をしている。</li> </ul> <p><b>【具体的な取組事例など】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校の支援：「せふりの風」では学校田を提供し、田植えと稲刈り体験を支援。小中学校の生徒数が減り小規模特任校という形になる中、学校を残すために地域住民も特色ある学校づくりに食育環境の充実などの面で協力している。</li> <li>・ 空き家バンク：バンクへの登録はほぼ増えない状況。空き家自体もそのまま住居として使えそうなものは少ない。移住・定住につなげる対応が必要である。</li> <li>・ 久保山ロッジ、鳥羽院山荘、久保山分校（脊振山麓習遊館）：非常にいい立地なので活用できないかということで検討。地域づくり団体の方や、佐賀大学の五十嵐先生のゼミの学生さんが学習テーマとして検討中である。</li> <li>・ 移住者の事例：4年前から農業のファームステイを通じて関係人口づくりを試みている。年間30人ぐらいの若者等を受け入れている中で、昨年、初の移住者が誕生した。現在、養鶏の研修をしながら活動しているが、適当な住居が見つからず市の協力で若者定住支援住宅に間借りしている。自ら地元へ飛び込む意欲があり、その人柄から支援したいという地元の人も増えている。SNSによる情報発信にも長けており、フォロワーの多いインスタグラマーの知り合いも多く、徐々に波及効果が出てきている。また以前教員を目指していたことがあり、うちの大学生の長男と「脊振塾」という形で地元の中学生に勉強を教えたりもしている。</li> </ul> <p><b>【移住・定住施策推進上の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単身者向けの住宅が脊振地区にない。今後、農業の担い手として将来脊振に移住したいという単身者が住める家がない（若者定住支援住宅は家族世帯用）。</li> <li>・ 移住希望者を空き家にいきなりマッチングするのは、現状で住める空き家もなく、地域の方とのコミュニティが作れるかという不安もある。その間を埋める形で単身者住宅やお試し移住用の住宅があると、時間をかけて地元の方とコミュニケーションを図りながら移住できるような仕組みづくりができるのではないかと。</li> </ul>
部会5報告	<p><b>【当面進めていく施策】</b></p>

	<p><b>1) わかりやすい情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な団体や個人が、城原川水源地域についてのあらゆる情報をわかりやすく提供する。城原川と周辺地区に関わる全てを発信しようという取り組み。当面発信したい内容は以下のとおり。</li> <li>ー城原川と周辺地区の歴史に関わる伝承、それに関わる物語</li> <li>ー城原川ダムの治水と関係づけて分かりやすく伝える。</li> </ul> <p><b>2) 上下流交流の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局からも説明があった小・中学校への出前講座と、城原川上下流域懇談会（城原川ダム水没地域への感謝のつどい）を実施。</li> <li>今後は上流の脊振地区で行われていることと、下流で行われていることの連携をさらに進めていきたい。</li> <li>下流側では水の郷再生市民会議の関係で市民のワークショップなども行われている。これらの取組に関連して見学ツアーや勉強会も行う計画。</li> </ul> <p><b>【今後の課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SNS の活用：本活性化推進会議のインスタにはフォロワーがほとんどいない。もっとうまく活用するため、関係者でしっかり組み立てをする必要がある。</li> <li>SNS 講座：脊振のお店や事業者などいろんな方が情報発信できるよう SNS 講座をやっていければという意見が出ている。</li> <li>城原川ダム関係の情報発信：神崎市を通じて国土交通省にお願いしていきたい。</li> <li>地元ガイド養成：視察した先に情報収集を行って、ガイドがどういうふうに行っているかなど、いろいろ活動ができればと考えている。</li> </ul>
今後のスケジュール	<p>事務局より来年度以降の活動に関する報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き作業部会等の活動の活性化を目指す。</li> <li>作業部会活動への庁内各部局の支援・連携を強化する。</li> <li>直近の予定として3月20日の市政20周年記念事業にて組織の活動に関するパネル展示や動画上映を予定している。</li> </ul>
質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>五十嵐議長の進行で質疑応答、意見交換を開始した。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座については下流域から始めるという理解なのか。肝心の上流域、水源地域の脊振の子どもたちにしっかりと説明する必要がある。受益地である下流域の理解を得ることは当然だが、そもそも水源地域の子どもたちがダム事業についてどれくらい理解をしているのか。子どもたちが学ぶ機会があれば当然その親世代も関心が高まり、家庭での会話も生まれる。ぜひとも脊振の小中学校で出前講座を実施してほしい。</li> </ul>
事務局（回答）	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座については、脊振地区においても実施を予定している。</li> </ul>
委員 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的なことなど各部会の検討と複合的に関わっている話が出てきている。特に里山という所を含めて地域や歴史と色々な価値をきちっと整理して、やり取り</li> </ul>

	<p>ができる場が必要ではないか。</p>
議長（見解）	<ul style="list-style-type: none"> <li>水源地域の活性化を考えると、その地域が持っている価値に、いかに住民自身が気づき、それを守る、あるいは育む、そういった活動の意識をどう高めていくかということに尽きる。水源地域に様々な課題があり、様々な活性化の計画が各部会で検討されているが、各部会において、地域が持っている多様な価値(自然的な価値、歴史的な価値、人の価値など)についてしっかりと部会の中で検討していただき、それを全体で持ち寄るような形で事業の展開につなげていければいい。</li> <li>まずはそれぞれの部会において検討いただいて、必要であれば部会長会議のようなものを開いて価値を共有していく。それを積極的に情報発信部会のほうで発信していただく。そういったことを検討したい。</li> </ul>
委員 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化的なもの、価値があるものをうまく整理しないと発信も進んでいかない。</li> <li>佐賀県で「唯一無二の誇り高き学校づくりプロジェクト」がある。こうしたもので高校生なんかも絡めて、何かできないかという意見をいただいている。</li> <li>出前講座に行くのではなくて、彼らに具体的に関わってもらう場をつくる。大学も含めてそういった動きを具体化できれば。</li> </ul>
議長（見解）	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校は今、「探究の時間」というのが必修化されており、地域課題をテーマにしたグループ学習などを全国の高校が色々な形で行っている。</li> <li>地元の神埼高校がどれくらい取組んでいるか分からないが、学校教育課等と情報を密にして、生徒たちの課題テーマを市として提供するとか、そういった提案をしながら、高校生がもう少し学習の一環として地域に関わるような方法についてもぜひとも検討してみしてほしい。</li> </ul>
議長（要望）	<p>[部会1に関連して]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Jクレジットの承認がされたら、市内の企業にそれぞれの企業の脱炭素経営に直接つながる制度だということを積極的にPRしてほしい。ゼロカーボンシティ推進課も多分関わるはずなので、よろしくお願したい。</li> </ul>
委員 3	<p>[部会2に関して]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水車米について、お米自体は仁比山産のお米か、もっと広い範囲のお米か。また、年間でどのくらいの量を販売しているか。</li> </ul>
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>仁比山地区の「ひのひかり」がメインになっている。現在は九年庵の公開の際に60kg程度を精米・販売している。1kg1000円（5kg5000円）で販売している。</li> </ul>
議長・委員 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>販売の見込みがあれば供給量も増やせるなら、ブランディングする際のストーリーもあり、多少高くても売れると思うので、販売力の強化について部会で検討をお願いしたい。</li> </ul>
議長（感想）	<p>[部会 3 について]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高取山の収穫祭に学生と参加した。それなりのにぎわいはあったが、地元の出店者が少ないなという印象があった。</li> <li>隣接する佐賀市旧富士町と旧三瀬村は合併前から産業祭やふれあい祭など、かなり大きなイベントを地域ぐるみで継続してやっている。もう少し地域ぐるみの開</li> </ul>

	<p>かれた活動に展開できないのかを検討してほしい。</p>
委員 4 (要望)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そうめんを地粉で作ろうとする場合、製粉会社に行く段階で他の産地と混じってしまう。佐賀県産ではあるものの産地を地元限定しようとする、農協も絡めてやっていかないと難しい。うまくいく方法があれば教えてほしい。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元産小麦のそうめんはぜひとも実現してほしい。産業ベースで考えれば、当然それなりのロットが必要だと思うが、試験的に少量生産で限定品の地元産小麦のそうめんチャレンジしてほしい。部会で今のご提案についても検討してほしい。</li> </ul>
議長 (要望)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直売所の品揃えが来られる方からすると魅力的とは映らない。通過交通のお客さんが大量に立ち寄るような直売所ではないので小規模なことは前提だが、品揃えに対する満足感が少ないというのが学生の作ったアンケートにも出ていた。</li> <li>・ まだまだ出荷できる農家はあるはずだが、自分で(直売所に)持っていけない人が増えている。その庭先で集荷して直売所に運ぶような共同集荷、そういった仕組み等も検討していただきたい。</li> <li>・ 各地で地域おこし協力隊員などが同様の集荷活動を担っている例も増えている。高齢化が進む中で直売所に野菜等が集まり難いという状況を制度的に少し改善していく必要がある。これは長期的な視野で必要と思うので、部会で検討してほしい。</li> </ul>
議長 (要望)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先達者、先に移住した人のネットワークで、次の移住者が入ってくる、これはチェーンマイグレーションと呼ばれる移住のパターンの基本となる。今回、この形で新しい移住者が生まれた。次はこの方とつながりで、新しい移住者が来ることも期待される。それを進める上で(受け皿となる)住居の問題、単身者、あるいはお試し移住、そういった住居をどう確保していくかということも本気で考えていかないと、せっかくニーズがあるのにマッチングできないことになってしまう。このあたりも部会と行政のほうで相談をして進めてほしい。</li> </ul>
議長 (報告)	<p>[久保山分校と鳥羽院山荘について]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今、我が校(佐賀大)の学生たちが企画提案をまとめている。学生らしい面白い提案で、簡単に言うと、佐賀大学と西九州大学、もうすぐできる県立大学、その学生たち有志が集まって運営委員会を作って、企画から運営までやらせてもらえれば、ちょっと面白い展開になるよというような企画を検討している。提案内容については、パワーポイントのデータを部会のほうに提供したい。</li> <li>・ 同時に、脊振地区で地域づくり活動をしている市民団体の活動のフィールドとして積極的に活用できるような提案も学生たちが進めている。今現在はどうしても小学生の体験的な活動に偏っているので、もう少し年齢層を上げる、とはいえ上げすぎない、若い世代の人たちが活用できるような、利用方法について提案してくれている。</li> </ul>
議長 (要望)	<p>[部会5：情報発信について]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部会1の方がYouTubeの動画を作っていたり、我が校(佐賀大)の学生たちも動画やSNSのInstagramのアカウントも作っている。こういうSNS情報は相当の数が存在するので、本来、まとめることはよくないかもしれないが、こうした</li> </ul>

	<p>情報がありますよというリストをまとめていただいて、関係者にQRコードか何かで送ってもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あとは共通のハッシュタグを付けるなど検討していただきたい。</li> </ul>
議長	<p>[今後のスケジュールについて]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の進め方等について、ご要望等も含めてご意見があれば。</li> <li>・次の全体会はいつ頃を予定しているか？</li> </ul>
事務局（回答）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業部会の進捗にもよるが、年度末を想定している。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは議事が終わりましたので、進行を事務局にお返しする。</li> </ul>
市長（総括）	<p>[挨拶]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は議論をいただいた作業部会の皆様の意見は本当にありがたく思っている。神崎市しっかりと取り組んでくれよということが全てだったかと思っている。</li> </ul> <p>[方針毎のまとめ]</p> <p>1) 方針1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・J-クレジットの話をしっかり理解していただく取り組みが必要。啓発も含めてしっかりやっていきたい</li> <li>・歴史・文化的な話もあった。そういうものを整理して、皆さんに知っていただいて、議論を促していくということも大事</li> </ul> <p>2) 方針2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水車米の話が出たが、実は市のほうでも検討をしていた。せっかく水車の里がありながら生かされていないという認識もあった。今、小淵地区で頑張っていたが、脊振で作られた米と一緒に水車米として精米しブランド化するという必要かとまさしく考えていたので、何らか形にしていければと思っている</li> </ul> <p>3) 方針3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫祭の話で地元の出店が少ないという意見には全く同感。そのあたりも見直してなるだけ地元の方々と一緒になって形にしていく、そして脊振を生かしていくということを考えていければと思っている。</li> </ul> <p>4) 方針4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住の話、お試し移住ができる場所は本当に必要だなと思っている。脊振村のときは住宅施策をやっているが、市になってから目立った住宅施策ができてない。特に市内では脊振地区と千代田の東北地区は住宅施策ができてないエリアかなと思っているので、今後そこは力を入れていくきっかけとして、お試し移住という切り口で取り組みができないかと考えている。</li> </ul> <p>5) 方針5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS等の情報発信のリスト、非常にいいなと思う。それぞれが今発信はしているが、誰がどういうものを出してるかを知るのは、活性化推進協議会の中では大事な取り組みじゃないかなと思う。事務局のほうでしっかりとリストを作成して共有をさせていただきたい。</li> </ul>
市長（挨拶）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冒頭申し上げたように行政だけでとか、市民の皆さんだけがやるということでは</li> </ul>

	なく、お互い知恵を出し合って一緒にいい方向に向かって取り組みを進めたい。
閉会 (事務局)	・ 神崎市水源地域活性化推進会議 第3回全体会議を閉会した。

以 上

注記)

- 本議事録は発言内容の趣旨が分かる程度の要旨をまとめたものです
- 発言者の氏名は委員として記載し、個人名は差し控えています